

宮古島市小中学校 校務支援システム (沖縄県宮古島市教育委員会)

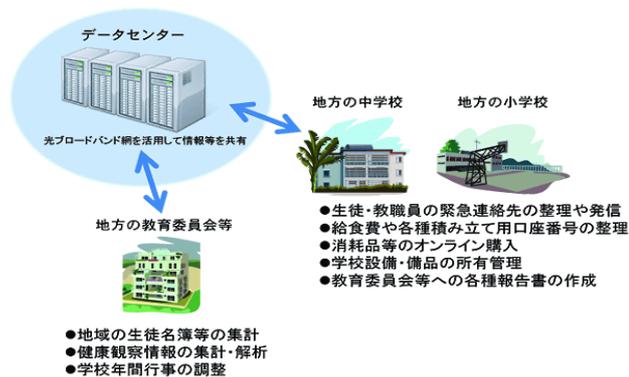
〔概要〕

教職員の事務軽減を目的として、校務事務の効率化・ファイルや情報の共有化を行い、クラウドを活用する事により自宅など自校外からの安全なアクセスを実現した。

総務省ブロードバンド・オープンモデル実証実験

〔コラム〕

宮古島市（以下、本市）は学校数が多く、広範囲にそして海を隔て離島にも分布しているため、文書の受け渡し等の連絡調整が難しく情報の共有・全体の連携が課題となっていました。本市では学校での校務効率化を図り平成22年4月に市内小中学校教職員全員に校務用PCの一人1台の環境を整備しました。校務用PCの活用により、情報の共有・連携の強化ができないか、また、校務の軽減を図って教師が子どもたちと向き合う時間を確保できるのではないかと検討していました。しかし、各学校へのサーバー設置やシステムの構築などは高価なものが多く予算的に厳しいものがありました。そこで校務のクラウド化が出来るという総務省の実証実験に参加させて頂きました。これは、光ブロードバンドを使用して、離れた場所にあるデータセンターで行うことができるものです。このシステムだと、回線のスピードさえ確保できれば、自前のシステムを構築するより少ない予算で実現が可能で、サーバー管理の人材も必要ありません。実証実験後、本市では正式に校務支援システムを採用する事にしました。校務支援システムを導入するにあたり、実証実験時に教職員の中から、検討会メンバーを決め、学校での活用方法や運用の改善点などについて月一回ベースでの意見交換会を開催しました。正式導入にあたって本市では教育委員会に校務サポート担当も設置しました。



総務省実証実験「ブロードバンド・オープンモデルによる地域課題解決支援システムの検証（小・中学教員の事務軽減支援）」
総務省HPより

○セキュリティー対策

- ・教育委員会や各学校からデータセンターまでの通信は暗号化（SSL）を実施
 - ・校務支援システムへは許可された端末のみ接続可能なセキュリティー方式を採用
 - ・データを保管するデータセンターは24時間365日有人監視を実施
- ※現地データセンターの設備、入退室管理について事前視察を実施

○利用者サポート

- ・操作問合せはヘルプデスクにて対応
 - ・年度更新作業時に、利用者向けの研修会を開催予定
- 利用者は宮古島市教育委員会及び、小中学校の全教職員
教育委員会からの文書等は校務支援システムの連絡掲示板へ掲載。
教職員は個人連絡の活用により他校の教職員との情報共有に活用されている。
- ・今後の課題としましては、多くの自治体でこのソフトの提供を受け、クラウドの特徴である低料金での導入を行っていく方がベターだと思います。



連絡掲示板 イメージ図



個人連絡イメージ図

【参考】主な利用機能

- ・連絡掲示板 : 教育委員会や各学校間で情報共有を行う掲示板機能
- ・個人連絡 : イントラメール機能
- ・予定表 : 学校や個人の予定表を管理するスケジューラ機能
- ・日誌 : 学校で利用する日誌を作成、登録する機能
- ・出欠管理 : 児童生徒の出欠状況を管理する機能
- ・いいところみつけ : 児童生徒の日常所見を作成、共有する機能

等

〔活用している通信ネットワーク〕

ケーブルテレビ回線 (上り512kbps、下り3Mbps)

(問い合わせ先)

宮古島市教育委員会 教育部 学校教育課 学務係

TEL:0980-77-4944

E-mail:hiroaki.w@city.miyakojima.lg.jp

伊丹育ち合い（共育）プロジェクト
（伊丹市立伊丹高等学校）
<http://sns.itamachi.jp/>

〔概要〕

「若者が地域に根ざした活動で本気になれば、地域が活性化できる」という仮説を実証的に実践した取り組みです。リアルな実活動としての社会活動と、学校と地域社会とをつなぐ仕組みとして地域SNS（「いたまちSNS」）を導入・活用し効果を上げています。全国でも希少な教育現場への地域SNS導入事例です。地域SNSを活用し実際の活動を補完することで、生徒の自発性を生み出し、その意欲に触発され地域が変わっていくことから「伊丹育ち合い（共育）プロジェクト」と名付けています。高大連携など多様な関係性が特徴です。

〔コラム〕

本プロジェクトは、若者が自己肯定感を持たず自信を失っていることに対して何かできないかと考えました。平成15年度から高校全校で実施されている新しい教科である情報科の授業として、地域活性化を場とし情報社会に適応する力（社会人基礎力）の育成をねらって企画しました。

地域での学びには、多くの人的ネットワークという環境が得やすいという利点があります。生徒にとって学校内だけの関係だけではなく、地域の多様な人との関わりを持つことによって、想定を越えた多くのことを学ぶことが可能となります。特に、商店街におけるイベント（ハロウィンパーティ）の場で、店主や地域の方々との共同作業を通じて、人との繋がりと信頼・絆を体得しています。高校生以上に、この活動を通して地域の大人たちが自分の育ちを実感できており、キャリア教育として地域の活性化に繋がると考えます。

この育ち合う地域活動を支えているのが「いたまちSNS」です。平成19年度から活用を開始しており、現在会員数が2,489名（高校生719名、卒業生1082名、一般688名、平均年齢が23.9歳：平成26年1月29日現在）。ハロウィンパーティを企画運用している9月・10月では、メッセージ3,191件（306人）、コミュニティピックアップ閲覧総数12,362件、コミュニティ返信数1,851件（270人）でした。

プロジェクトの効果としては、このプロジェクトに関わった卒業生たちが、地域活動を通じて高校生徒を支援しています。また、ハロウィンパーティでは、当時5歳で参加した子どもが、10年後に今度は高校生として企画する側に立つというような、時間を超えたつながりが生まれていることです。伊丹に愛着を持ち、家族のような見返りを求めない人のつながりが生まれつつあります。

(取組みイメージ図)

いたみ育ちあい(共育)プロジェクト —商店街の賑わい復興活動を場として—

伊丹市立伊丹高等学校
教諭 畑井 克彦

いたみ育ちあい(共育)プロジェクトとは
市立伊丹高校の教科「情報」の授業として実施。1年生6クラス、2年生・3年生は選択授業で参加。伊丹市内の商店の中から担当する商店を、1人1店舗ずつ決め、若者の視点で、その商店に貢献する何らかの企画を立案し、実行する。
その他、商店街と一緒に各種イベントを開催。最大のイベントは、10月末に行う「ハロウィンパーティ」大学生が、高校生の授業に入り込み、一緒に活動している。(関西学院大・関西大・京都大・芦屋大)

教科「情報」の成り立ち

地域の現状
・近隣に複数の大型ショッピングモールが出店
・周辺商店街の店主の多くが市立伊丹高校出身、生徒に子弟も多い
・他府県で高校生が商店街活性化に参画

教科「情報」
・コンピュータスキル取得ではなく、「情報は人と人の信頼の上にやりとりされる」ことが基軸
・震災後のボランティア活動で培った人脈を活かしたい

活性化を通して地域の元気を取り戻すプロジェクト学習

育つ生徒像
「伊丹が好きやねん」という愛着を持った生徒

愛着は、情動、さらには他人とのコミュニケーションや対人的適応能力を発達させるための機能的準備系になると考えられる。
文部科学省
「情動の科学的解明と教育等への応用に関する検討会」

地域への愛着が社会生活の基盤をつくる

目指す力⇒社会人基礎力 (各個人基礎力を養成する力の総称)

情報社会で生きていく力
⇒社会の中で豊かに充実した人生を送るために必要な能力

情報活用能力(アクション) → 情報活用能力(シンキング) → 情報活用能力(コミュニケーション) → 情報活用能力(チームワーク)

地域という場での「共育」

- 1.人のくらしが息づいている場
- 2.高校生が頑張ることによって、動きを生み出すことが出来る、許容量の大きい場
- 3.多様な人との関わりによって、思いもよらないことが生まれる場
- 4.社会規範が生きて機能している場

「場」が次なる「場」を生む

3者の学び合い

企画立案・取材方法
高校生 ↔ 大学生
伊丹のこと・店舗情報

刺激(アイデア) 熱意(心の活性化) → 現場の激しい意見 → ダメ出し → 店主



つながりを補完する仕組み

いたまちSNS
<http://sns.itamachi.jp/>

特徴:
・実名登録制
・完全招待制
・後見人制
・写真見の掲載

教科情報 年間計画

4月	ガイダンス・SNS登録
5月	商店街ざっくり調査
6月	店舗調査・担当店舗決定
7月	お店の良いところ探し(夏休み課題)
8月	
9月	活性化企画立案
10月	企画実施、ハロウィン準備
11月	企画評価、再立案
12月	再実施、再評価、報告書作成
1月	クラス内報告プレゼン
2月	校内発表会
3月	校外発表会

市高生がつくるハロウィンイベントって??

2004年から市立伊丹高校中心にハロウィンイベントが開催されるようになった。きっかけは阪神淡路大震災。平常時からいかに地域の人々とつながっておくかというのを重視し、毎年開催され続けるこのイベントは2012年10月28日で第9回目を迎えた。

市立伊丹高等学校3年 猪崎真理子・角山小夏・藪内雪乃 総合政策学部中條せ41 宮崎貴空

「人の流れ」と「交流」を作りだす

伊丹市が打ち出す「4極2軸」の政策にのっとり、イオンモール伊丹・ビバ商店街・ショッピングデパート伊丹の3つを拠点から回遊性を生み出し、同時に人と人の交流もつくりだす。

多様な広報

この他にも Facebook・Youtube・専用HP・ラジオ番組の出演・ポスター・前日のイベントなど多岐に渡る広報が、認知度を大きく広げる礎となった。

「人をつなぐ」その秘密は「高校生と地域の絆」

VIVA商店街 ゲーム会場 240 枚売上げ!!
美食話教室の開催 60 枚売上げ!!
ショッピングデパート 2階から8階を使ったゲーム会場 120 枚売上げ!!

チケット売り上げ枚数

各会場を移動すると記念品をもらえるチケット返還数

- 54枚
- 14枚
- 15枚

「今日はどのイベントをやるの?」「そのマントかわいいね」「合言葉は?」「Trick or Treat!」「一緒に飾り付けしようよ!」

「語らいが生まれる」

高校生だからこそ。伊丹だからこそ。

- 高校生主体であることの強さ 若い力・懸命さ
 - 高大連携活動 大学生の強いバックアップ
 - ハロウィンというイベント
 - 仮装・お菓子をもらえる子供ととって参加しやすい
 - 工夫されたイベントやゲーム
- 地域の人々の協力を得たダンス教室・英会話教室のコラボイベント・高校生手作りのゲーム会場
- **他の地域・高校生でも可能か?**
伊丹のような地域の強い協力、またこうしたイベントを、授業として受け入れることのできる教育環境が必要。「地域一体となる力をどのように築きあげていくか」。それがポイントとなるであろう。

(問い合わせ先)
伊丹市立伊丹高等学校
畑井克彦
TEL: 072-772-2040
e-mail: hata3000@itami.ed.jp

(教育・学習機会の充実－3)

早稲田大学人間科学部 eスクール (通信教育課程)

<http://www.waseda.jp/e-school/>

〔概要〕

スクーリングを除くほとんどの課程をeラーニングで行う日本初の通信教育課程として、2003年に開設。「人間環境科学科」「健康福祉科学科」「人間情報科学科」がある。講義は、インターネット経由で動画配信し、時間・場所を選ばず受講が可能で、繰り返し学習することができる。講義の受講だけでなく、インターネット経由で小テストの回答やレポート提出をする。質疑応答等は、BBS (電子掲示板) 機能を利用する。BBSは、教員・教育コーチ・学生間のコミュニケーションにも活用される。学生は通学制と同様に、正規の大学の単位を取得することができる。

〔コラム〕

eスクールは2013年度に設立10周年を迎え、卒業者数も750名以上と、着実に実績を積み重ねています。卒業率は5割強となり、テキストや回答を郵便物で送る従来型の通信教育の世界で、全課程を修了する比率が5%程度という数値が常識であった現状からは、想像もつかない成果として学内外から高く評価されています。さらに卒業生のうち約2割が大学院に進学され、更なる学びのレベルアップに挑戦されています。



(問い合わせ先) 早稲田大学人間科学部 eスクール

<http://www.waseda.jp/e-school/>

(教育・学習機会の充実－４)

千代田Web図書館
(千代田区立図書館)
<https://weblibrary-chiyoda.com/>

〔概要〕

インターネット環境にあるパソコンであれば、24時間365日「電子図書」を、借りたり返却したりすることができる電子上の図書館。外出困難な高齢者や来館する時間がない忙しい人でも気軽に図書を借りられるメリットがある。また、音声や動画再生機能のある学習参考書や3D図鑑など、電子図書ならではの資料も所蔵。(千代田区内在住者、在勤者、在学者限定)

約6,000タイトルを所蔵し、毎月約1,000件のアクセスがある。(2013年9月末現在)

(千代田Web図書館ホームページより)

千代田Web図書館
Chiyoda Web Library

資料検索 | 資料リスト | 利用案内 | マイライブラリ

利用案内 よくある質問 学習方法 プログラムダウンロード 電子図書の利用方法 千代田Web図書館とは

LOGIN
ID
PW ログイン

CATEGORY
▷ 青空文庫
▷ 総記
▷ 哲学
▷ 歴史
▷ 社会科学
▷ 自然科学
▷ 技術
▷ 産業
▷ 芸術
▷ 言語
▷ 文学

千代田図書館ワークショップ参加作品
永江朗賞作品
Web図書館
ネットワーク環境確認

今月の図書
新刊 07-08年版 3級FP技能士 楽習マスターステップ...
東京リーガルマインド LED総合研究所、FP試験部・編者
(株)東京リーガルマインド
●テキストと充実のチェック問題。これ1冊でOK
FP技能検定を知り尽くした..

お知らせ FAQ 出版社PR 出版社一覧
(株)東京リーガルマインド

子ども向け図書
親子ではじめる算数つまずき後習帳
吉本笑子 情報センター出版局
英語塗り絵の勉強 (株)YBMSISA.COM
星のペイデーサーカスシリーズくまのぼんマどろろぼう パン大作戦
きのひなた/ふん・やくい 星の環会

ビジネス図書
07-08年版 3級FP

(問い合わせ先) 千代田区立千代田図書館
TEL : 03-5211-4289

障壁画等文化財の画像情報配信
(NPO 法人 京都文化協会)
<http://www.kyo-bunka.or.jp/>

〔概要〕

日本の長い歴史の中でその文化的創造の中心的役割を担ってきた京都では、文化遺産が過去から現在へと継承され大切に保存されている。

デジタルアーカイブとは、この文化遺産をデジタル画像に保存し、文化財の貴重な情報を保管し後世に正確に伝える。

また、文化財をデジタル化し世界へ向けて発信することで、歴史ある京の伝統産業の活性化が図られ、新しい「京都ブランド」の誕生を支援している。

〔コラム〕

NPO 法人 京都文化協会（以下「協会」という）では、主に京都の文化財のデジタルアーカイブ事業や日本の文化の国内外への発信事業を行っています。

日本の文化財は屏風や襖といった和紙製のものが多く、その劣化は西洋の絵画と比べると著しいものがあります。また、建物の一部であることが多く、温度変化の激しい日本においては美術館など環境を管理された場所への早急な移動が必要となっております。

とはいえ、実際の所蔵先から離れてしまえば、なかなか一般の人々に作品を見ていただくことができなくなってしまいます。

そこで、協会ではそのような文化財を最新のデジタル技術によってデータとして保存するとともに、特殊な和紙に出力したのちに伝統工芸士の手によって金箔加工等を施し、実物にきわめて近い複製品を制作しています。

そのようにして制作した文化財の複製品を元の所蔵先の寺院等に設置し、本物は美術館等にて厳重な温湿管理をすることにより文化財保存に貢献する活動を行っています。

また、活動は保存のみにとどまらず、そのような複製品を利用した国内外への日本の文化の発信に力を注いでおります。本物を海外に持ち出すことは非常に困難であり、展示環境も厳しく制限されます。

そこで協会においてデジタルアーカイブした複製品を利用し、より多くの方に日本の文化に触れていただければと考えております。本年は、現在キヤノン株式会社と共同で遂行しております『文化財未来継承プロジェクト』（愛称：綴プロジェクト）の第6期が終了し、4月より第7期が始まる年となります。

様々な文化財の高精細デジタル撮影、そして高精細複製作品の制作に注力することで、今後も日本文化の保存、発信事業に努めていき、国内外にその素晴らしさを伝えていく活動を行ってまいります。

(NPO 法人 京都文化協会ホームページより)

特定非営利活動法人
京都文化協会

KYOTO CULTURE ASSOCIATION (NPO)
Home English

特定非営利活動法人 京都文化協会
KYOTO CULTURE ASSOCIATION

聚光院「花鳥図」狩野永徳筆

協会の目的
Aims of the Association

活動記録
Activities

二条城画像利用
Property Image

お問い合わせ
Inquiry

(問い合わせ先)
NPO 法人 京都文化協会
TEL : 075-354-8195

学校間インターネットビデオ配信 (大阪府岸和田市)

〔概要〕

光ブロードバンド網で学校間を接続し、学校放送や公開授業の配信、テレビ会議による情報交換を行なうことで、児童・生徒のコミュニケーションを促し、ニューメディアへの関心と理解を深めるといった教育的効果を目的としている。

また、映像コンテンツだけでなく教材・資料等を登録しデータベース化することで、教職員の情報共有を進め、教材や試験問題作成の労力を削減し、教育の質を高めることを目指している。

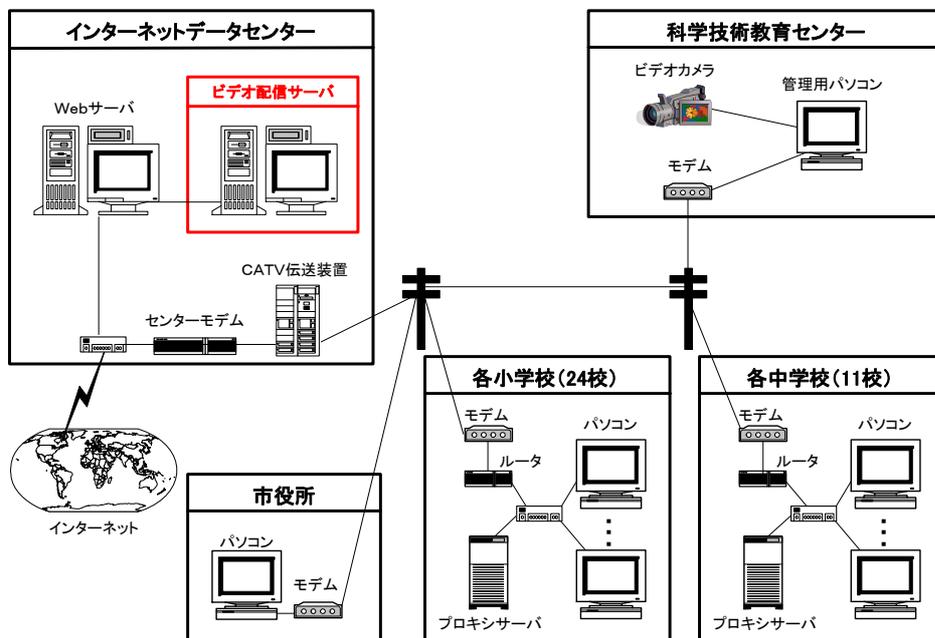
〔コラム〕

本システムは、テレピア計画で整備された「学校間双方向システム」をインターネット技術によって発展させたもので、リアルタイム通信だけでなく、過去のデータを蓄積し、有効活用することを目的としています。運用に関しては、各校の情報教育担当教員を中心とした会議で決定されており、教育コンテンツの登録についても教職員の要望から実現しました。

なお、月額使用料は105,000円となっています。

(岸和田市資料より)

学校間インターネットビデオ配信システム



(問い合わせ先) 岸和田市企画調整部情報政策課 TEL072-423-9514

e-mail : jousei@city.kishiwada.osaka.jp